

水稻病虫害防除対策（5月）

いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどの初期害虫に対して育苗箱施用剤を利用することで防除の手間がかからず長期間防除効果が期待できます。しかし、病虫害の発生が少ないと予想される場合は、過剰防除や過剰コストになりますので注意が必要です。

育苗箱施用剤を効果的に活用するために、次の点に注意してください。

- ・は種前やは種時（覆土前）散布では、適切な施用量を育苗箱に均一になるように散布してください。
- ・移植直前に育苗箱施用剤を散布する場合、葉面が濡れていると薬剤が付着して葉害が生じるおそれがあるため、じょうろ等で散水して薬剤を株元に落としてください。
- ・育苗箱施用剤の移植同時散布を行う場合、事前に施用装置が正しく作動して農薬登録に適した量が散布されているかを確認してください。
- ・高密度育苗では、適切な量がほ場に投入されるよう、田植同時側条施用装置を活用してください。
- ・移植後直ちに湛水して、田面が露出しないようにしてください。
- ・ムレ苗や軟弱徒長苗、極端な低温が続く場合や冷水がかかるほ場では、葉害のおそれがあるので散布を控えましょう。
- ・パック剤は藻やウキクサなどの繁茂や浮遊した刈株などがあると、拡散が阻害されるため、事前に排除しておいてください。また、強風時の散布も避けてください。
- ・移植時に農薬を散布した場合は、散布後1週間は落水やかけ流しをしないでください。

1 葉いもち

令和3年の葉いもちの発生は、平年並でした。

いもち病は、前年の発病時に籾に付着したいもち病菌が、苗で発病して本田に持ち込まれます。育苗期や定植直後は環境条件が不適なため発病しにくいですが、挿植用置苗として長期間ほ場内に放置された場合、発病や他の苗への感染が起きやすくなるので、補植が必要なくなったら早めに処分してください。

2 紋枯病

令和3年の紋枯病の発生は、平年より少なくなりました。

紋枯病は、前年発生した病斑上にできた菌核が地表に落下し、代かき時に水面に浮上してイネの株元に漂着して、やがて発芽してイネ体に侵入します。水尻やほ場の風下の畦畔沿いに浮遊しやすいため、浮遊物を取り除いてください。7月中下旬に株元に病斑ができ、夏期高温だと上位葉鞘まで進展しやすくなります。例年発生の多いほ場では、粒剤による防除を検討してください。

3 イネミズゾウムシ

令和3年のイネミズゾウムシの発生は、中通り地方、会津地方で平年よりやや多く、浜通り地方で多くなりました。また、浜通り地方の一部では発生程度の高いほ場も確認されました。近年、全地域で発生が増加傾向にあるため、注意が必要です。

気温が高い日が続くと成虫の本田への侵入時期が早まります。田植え時期と侵入最盛期が近いと被害を受けやすくなるため、注意が必要です。育苗箱施薬をしていない場合は、100株当たり40頭以上の成虫が見られたら水面施用剤で防除してください。

4 イネドロオイムシ

令和3年のイネドロオイムシの発生は、会津地方、浜通り地方では平年並でしたが、中通り地方では平年より多く、発生程度の高い地方もみられました。また、昨年度実施した感受性検定の結果、一部の地域でチアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されました。

例年発生が多いと思われる場合は、①箱当たりの薬量、床土への均一な散布、田植同時散布装置の適切な調整、②高密度育苗での適切な施用量、③田面が出ていたり、漏水がないか、田植え後に低温による生育の遅れがなかったか、などを確認してください。

上記①～③に該当がない場合は、感受性の低下があると考えられますので、薬剤を変更してください。

表 主な育苗箱施用剤（令和4年版福島県農作物病害虫防除指針掲載農薬）

【は種前～は種時】

農薬名	いもち病	紋枯病	イネズザウムシ	イトナシ	使用時期	使用回数
エバーゴルフオルテ箱粒剤	○	○	○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	
スタウトダントツ箱粒剤 08	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	
スタウトパディート箱粒剤	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	
ツインターボ箱粒剤 08	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	
ファーストオリゼプリンズ粒剤 6	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）	
ルーチンアドマイヤー箱粒剤	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	
ルーチンパンチ箱粒剤	○		○	○	は種前	1
					は種時（覆土前）～移植当日	

【移植前～移植当日】

農薬名	いもち病	紋枯病	イネズザウムシ	イトナシ	使用時期	使用回数
ジャッジ箱粒剤	○		○	○	移植前3日～移植当日	1
デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	○		○	○	移植前3日～移植当日	1
デジタルメガフレア箱粒剤	○		○	○	移植前3日～移植当日	1
トリプルキック箱粒剤	○	○	○	○	移植3日前～移植当日	1
ビームガゼット粒剤 55	○		○	○	移植前日～移植当日	1
ブイゲットアドマイヤー粒剤	○		○	○	移植2日前～移植当日	1
ブイゲットバリアード粒剤	○		○	○	移植10日前～移植当日	1
Dr. オリゼスタークル箱粒剤	○		○	○	緑化期～移植当日	1
Dr. オリゼスタークル箱粒剤 0S	○		○	○	移植3日前～移植当日	1
Dr. オリゼダントツ箱粒剤	○		○	○	移植3日前～移植当日	1
Dr. オリゼフェルテラグレータム粒剤	○	○	○	○	移植3日前～移植当日	1
Dr. オリゼプリンズ粒剤 6	○		○	○	緑化期～移植当日	1
Dr. オリゼリディア箱粒剤	○		○	○	移植7日前～移植当日 ^{*a}	1
					移植3日前～移植当日 ^{*b}	

【殺菌剤】

農薬名	いもち病	紋枯病	イネスズメムシ	イネトモムシ	使用時期	使用回数
側条オリゼメート顆粒水和剤	○		—	—	移植時（ペースト肥料に混合し、側条施肥田植機で施用）	1
ブイゲットフロアブル	○		—	—	移植時（ペースト肥料に混合し、側条施肥田植機で施用）	1
Dr. オリゼ箱粒剤	○		—	—	緑化期～移植当日	1

【殺虫剤】

農薬名	いもち病	紋枯病	イネスズメムシ	イネトモムシ	使用時期	使用回数
オンコル粒剤 5	—	—	○	○	移植前 3 日～移植当日	1
ガゼット粒剤	—	—	○	○	移植前 3 日～移植当日	1
ダントツ粒剤	—	—	○	○	移植 3 日前～移植当日	1
パダン粒剤 4	—	—	○	○	は種前又は移植当日	1
パダン SG 水溶剤	—	—	○	○	移植時（ペースト肥料に溶かし、側条施肥田植機で施用）	1
パディート箱粒剤	—	—	○	○	は種前 は種時（覆土前）～移植当日	1
バリアード箱粒剤	—	—	○	○	移植前 2 日～移植当日	1
フェルテラ箱粒剤	—	—	○	○	は種前 は種時（覆土前）～移植当日	1
プリンス粒剤	—	—	○	○	は種前 は種時（覆土前）～移植当日	1
リディア箱粒剤	—	—	○	○	移植 3 日前～移植当日	1

注) 表中の薬剤は「令和 4 年版 農作物病害虫防除指針」より抜粋

注) *a は 1 箱当たり 50g 施用の場合での登録

注) *b は高密度には種する場合（10a 当たり 1 kg 施用）での登録

注) 使用回数の制限の欄は、その剤の使用回数であり、使用する際には成分ごとの総使用回数を確認すること。

※農薬の登録内容については慎重に校閲していますが、登録内容の変更は随時行われています。また、同じ農薬名でも農薬会社によって登録内容が異なることがありますので、農林水産省のホームページ (<https://pesticide.maff.go.jp/>) 等で最新の登録内容を確認してください。（記載中の登録内容は令和 4 年 4 月 25 日現在）